

[成果情報名] 横川に設置したワカサギの人工産卵床について

[要 約] 横川に設置したワカサギ人工産卵床に付着卵を確認した。これらを水位変動の少ない水域に移動させることで、自然産卵によるワカサギ資源造成を促進できる可能性がある。

[部 署] 山形県内水面水産研究所・資源調査部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 研

[キーワード] ワカサギ、人工産卵床

[背景・ねらい]

近年、内水面漁協の冬季の遊漁収入として、ワカサギ釣りが注目されている。その有効な増殖策の一つとして、産卵期に人工産卵床を設置し自然産卵を促進させる方法が挙げられる。作成した人工産卵床を横川に設置し、産着状況を調査した。

[成果の内容・特徴]

- 1 2020年5月11日 小国町漁協の組合員と一緒にワカサギ人工産卵床を作成した(図1、2)。そのうち5床を横川に設置した。
- 2 2020年5月15日に14床の人工産卵床を設置した(合計19床)(図2)。
- 3 2020年5月19日に、人工産卵床の卵付着状況を調査した結果、約241粒/m²の付着卵を確認した。約200粒/床×19床=約3,800粒が産卵床に付着したと推定された。なお、周りの砂利にも卵が付着していた。
- 4 2020年5月25日には、わずかではあるが人工産卵床と周りの砂利への付着卵を確認した。2020年6月1日は付着卵を確認できなかった。なお、5月28日に横川の水位が低下し産卵床が干上がったため、水のある場所へ小国町漁協組合員が移動させた。
- 5 横川では、ワカサギの産卵期に、急激な水位減少の影響で産卵期に産卵場の消失あるいは産卵した卵が干上がってしまう事例がある。人工産卵床に産卵させ付着卵を確認後、早急に、これらを水位変動の少ない水域に移動させることで、自然産卵によるワカサギ資源造成を促進できる可能性がある。

[成果の活用面・留意点]

- 1 埼玉県の試験結果では、346千粒/m²付着したとの報告がある。また、人工産卵床に泥がかぶってしまい、産卵に影響を及ぼした可能性がある。設置場所や期間などを小国町漁協と検討する必要がある。
- 2 ワカサギ人工産卵床は、小国町漁協が「水産庁後援 内水面釣り場拡大事業(ワカサギ)」で補助を受け材料が支給され作製したものである。

[具体的なデータ]

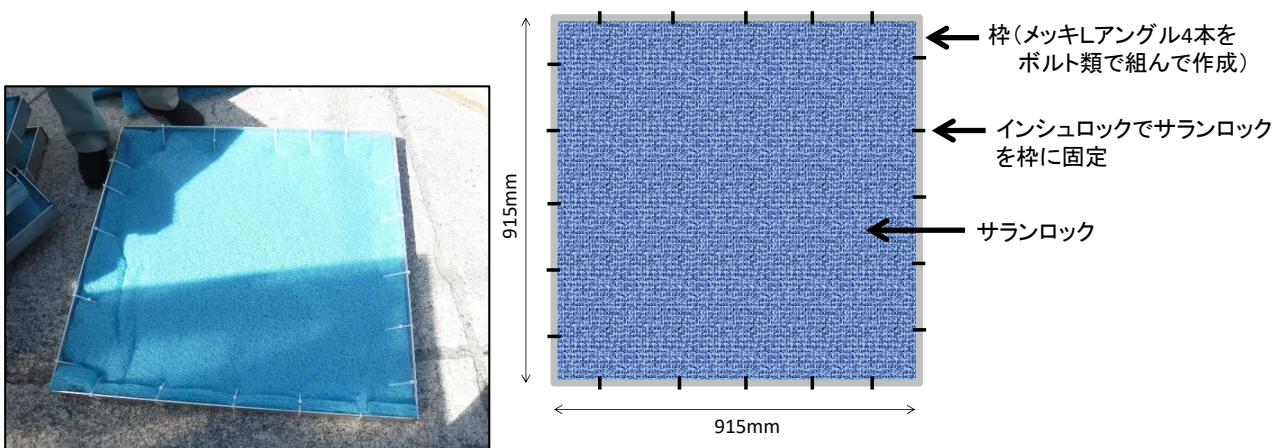


図1 作成したワカサギの人工産卵床とその模式図

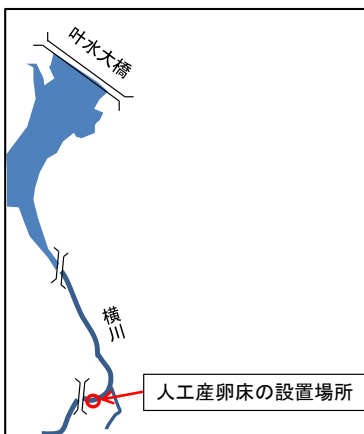


図2 横川に設置したワカサギ人工産卵床

[その他]

研究課題名：増養殖技術指導

予算区分：県単

研究期間：令和2年度

研究担当者：河内 正行

発表論文等：なし